

「敵基地攻撃」議事録作りか

政府「検討初回」 専門家は懐疑的

有識者会合議論

敵基地攻撃能力の保有の是非を最大の焦点に、政府が取り組む外交・防衛政策の長期指針「国家安全保障戦略」改定に向けた議論で、有識者会合の議事録を作成していないことが分かった。要点をまとめた議事概要はあるものの、内部文書扱いで非公表。専守防衛をはじめ、戦後の安全保障政策の大転換につながる検討が透明性を欠いたまま進むことに、専門家は「政府の判断を将来的に検証できるよう記録を残すべきだ」と警鐘を鳴らす。（川田篤志）

岸田文雄首相は昨年十二月の所信表明演説で、一年間をかけて国家安保戦略と防衛計画の大綱、中期防衛力整備計画の三文書を改定すると表明。これを受け、政府は与党側で進む議論と並行し、今年に入って二〇二三年の国家安保戦略策定に携わった元幹部官僚らの意見聴取を始めた。これまでに六回開催し、計二十一人を招いたが、初回を除いて日程を事前に公開せず、具体的な議論の内容も一切伏せており。毎回、事後に公表しているのは「現在と将来の我が国の戦略的環境等」など、議論のテーマや、出席者名など最低限の情報を羅列したA4判一枚の資料にとどまる。

局の担当者は議事録を作成

しない理由に聞け、「今は検討の初期段階で、多岐にわたる課題について幅広い有識者と意見交換し、われわれ自身の頭を整理しているからだ」と説明。議事概要の存在は認めたが、「どうまで開示できるのか精査する必要がある」などとして、公表していない。

会合に招かれた有識者の一人は取材で、中国や北朝鮮などは議論の推移に注目

しており、政府方針がある程度固まった段階で公表した方が戦略的に有利に働くと指摘。「政府側、有識者が本音で議論するために非公開の場があつても良い」と理解を示す。

現行の国家安保戦略の策定期は、安倍晋三首相（当時）ら政府側出席者の発言も記載された議事要旨が公表された。それに比べても、今回は情報公開に後向き。所信表明演説で丁寧な説明を約束した岸田首相の発言とも相いれない。

NPO法人「情報公開クリアリングハウス」の三木由希子理事長は、敵基地攻撃能力の保有によって相手国から反撃されるリスクが高まる可能性もあることから「国民の信頼を得る」と大書だ。有識者が挙げた課題や論点などをできるだけ早い段階で明らかにして、国民的な議論を行いくべきだと提案する。

2013年第1回の現行戦略		今回の改定	
北岡伸一 国際大学学長（座長）、 細谷雄一慶應大教授、 谷内正太郎 内閣官房参与ら計8人	メンバー	国家安全保障局の 谷内正太郎元局長、 北村滋前局長、 北岡伸一氏、兼原信克 元官房副長官補ら 各回2~5人計21人	22年1~3月上旬に 計6回。 今後も不定期開催
13年9~12月に 計7回開催	開催時期		
当時の安倍首相ら政府側出席者の発言や委員の意見などをまとめた「議事要旨」を公開	情報公開	「議事録」なし、「議事概要」あるが公表せず 「現在と将来の我が国の戦略的環境等」など テーマのみ公表	
国家安保戦略などの改定に資するため首相が開催する懇談会	位置づけ	政府として安保戦略策定に向けて有識者の意見を聞く意見交換。正式な会議体ではない	

国家安全保障戦略「改定を巡る有識者会合の比較」

*開幕は3月